

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401947
法人名	社会福祉法人 静雲会
事業所名	グループホーム 静園
所在地	〒859-2501 長崎県南島原市口之津町3475番地1・3476番地 (電話)0957-86-5033

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	H20年2月6日	評価確定日	H20年2月29日

【情報提供票より】(H19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 10,4人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3000円・実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	哲翁病院・山北クリニック・石川内科医院・草野歯科医院・渡辺眼科医院・渡辺歯科医院
---------	--


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの眼下に海水浴場の青い海があり、周辺は畑、裏山はボーイスカウトの宿泊訓練場で、情緒ある場所に位置している。母体がお寺で、関連法人に保育園がある。今年度の目標を「ホームのアピールできることを作っていく」として、月2回住職の御法話を取り入れ、命の大切さや精神面に配慮した心のケアを目指している。又、居室を我が家として考え、馴染んだ生活支援に努力しており、食事の準備風景から、家族のために働く姿があり、受身だけの生活ではなく、自分のできる事を率先しており、生活感を感じる事が出来る。施設長を始め職員と入居者が一丸と成り、現状に甘んじることなく、年々前進している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を質の改善の機会と考え、真摯に受け止め、前回の評価の改善点は改善計画シートを作成し、早々に個々の家族へお手紙を毎月送付し、生活歴の充実に向けての書式の準備・介護計画を職員全員で取り組んだ。又、日々の記録は計画に沿って記入し、ゆとりのある職員の勤務体制・外出支援(列車の旅・足湯等)等、できる事から積極的に改善し、質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を課題把握の一旦として理解し、職員全員に自己評価表を配布し、記入後管理者が職員一人ひとりと面接し、集約して実施事項を詳細に記入している。職員全員の意見が聞け、ケアの統一と課題の分析に活用し、現場での実践に有意義に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、地区長・家族の代表・市町村の職員・ホーム側が参加して、議長・書記を決め、行事・入居者の様子・質疑応答を織り込み活発に開催している。地域の情報が聞けるようになったり、地域の資源活用に関する気付きやお願いが言えるようになり、運営推進会議の成果が上がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	個々の家族に手紙(入居者の状況・食事メニュー・行事等)を毎月送付して、ホームの様子や入居者の状況を細やかに伝え、ホームに関心を持つよう努力している。玄関に意見箱を設置し、来所時の声掛けをする事で、傾聴の姿勢をアピールしており、時々アドバイスの事聞く事があり、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会加入・中学生の体験学習・ボーイスカウト・カブスカウトとの交流を図り、地域の人は通院・買い物・散歩時に顔馴染みの関係であり、交流がある。立地条件を考慮すると地域とは密接な関係確立は重要であり、入居者の徘徊時のチェックポイント・非常時(火災・地震を含む)の協力等を考慮した、お願いの出来る関係作りや、運営推進会議の構成メンバーの充実へ繋がる密接な交流が期待される。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「いつまでも自分らしく心健やかに笑顔で過ごす楽しいホーム」であり、入居者が理念で表す姿で、通院や買い物等、普通の生活をしながら地域の人と関わることを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全体の意見(その人の望み・自分らしく)を踏まえて、以前の理念を見直し「笑顔で過ごす楽しいホーム」を追加し、安全で楽しい生活支援に向け、職員全員で共有し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会加入・中学生の体験学習・ボーイスカウト・カブスカウト等と交流を図り、地域の人とは通院・買い物・散歩時に顔馴染みの関係である。近隣は民家がなく、非常時や徘徊時の協力面を考えると交流の不足が窺える。		地域とは普通に交流されているが、立地条件を考慮すると、やはり密接な関係確立は重要であり、入居者の徘徊時のチェックポイント・非常時の協力へのお願いや運営推進会議の構成メンバーを視野に入れた密接な交流が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全員に配布し、記述後面接し、管理者が集約し詳細に実施内容を記入し、課題を明確にしている。又、評価後は改善計画シートを作成し、できる事から改善している。評価を職員・ホームの向上の場と考え、全員が同じ方向を目指し、有意義に活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地区長・家族の代表・市町村の職員・ホーム側が参加して、議長・書記を決め、様々な報告や質疑応答を織り込み開催している。地域の情報や資源活用のお願いが出来るようになり、成果が上がっている。		

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは介護保険の更新時に訪問し話をしたり、市町村が主催する勉強会に参加する事で、顔馴染みである。今後更に密接な関係作りを希望している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	静雲寺だより・くちのつ保育園だより・静園だより、総合的な便りと別に、毎月個別の手紙(行事・メニュー・その人の状況等)を送付している。受診や状況の変化はその都度電話で知らせている。金銭管理は控え伝票・現金添付票・お預かり票を発行し、領収書・残高を確認し、了解の記名・捺印・日付を受理して、金銭の出納を明確にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、相談・苦情体制を掲示・配布し、明確にしている。毎月送付する手紙に、その月の行事を載せ、出来るだけホームに来られるよう工夫し、来所時には話し掛け、傾聴の方針をアピールしており、時にはアドバイスの事聞くこともある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は殆どないが、退職者等の関係で稀にある。異動や新人職員は便りでお知らせし、入居者には自己紹介やエプロンに名前があり、分かり易く理解して頂いている。職員の精神面やシフトに配慮し、離職を最小限に抑える取り組みを実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップに協力的であり、外部研修は掲示板に貼り、希望者を優先的にシフトを組み、ケア研究会の研修はできるだけ参加している。内部ではその時々に必要な研修を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会に加入し、研修等で顔見知りであるが、互いのホームを行き来する事はなく、今後、行事の参加や他ホームとの交流によるネットワーク作りを希望している。		他ホームと交流・職員の交換研修実施等、ケア研究会や地域のグループホーム間でネットワーク作りをされ、様々の疑問や課題解決に向け、優れている点を取り入れ、サービスの質の向上に活かす事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は在宅や入院中の人が多く、今までの生活を聞き取り、家族や本人が施設見学を2～3度しながら、ホームの方針を話し、納得しての入居に至っている。入居後はできるだけ家族にホームに来て頂き、安心に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者から学ぶことは多々あり、礼儀作法・配膳方法・地域の歴史等、経験豊かな知恵を教えて頂き、共に支えあって楽しく生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やカンファレンスを記録し、入居者の生活歴や状況を把握し、日々の携わりやお話を聞きながら、何を望まれているか、常に考え支援している。更に生活歴を把握する為、家族と職員が書き込む生活歴の書式を考案し、今後実施するための準備が出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当を決め、責任のある細やかなケアにより些細な事に気付き、個人記録は血圧・排泄状況等、1週間を1枚に書き、特記事項は別紙に記入している。様々な情報や本人・家族の意向を中心に全員で検討する事で、個別で具体的な計画を作成し、家族の同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェックやモニタリングで入居者の満足度を把握し、介護計画の遂行状況や効果等をフロア会議やカンファレンスを実施し、評価しながら見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の暮らしを守る為、医療連携・病院受診介助・月2回住職による御法話・ボーイスカウトやカブスカウトとの交流・保育園の行事参加等、多機能性を活かした柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は基より、入居前からのかかりつけ医を大切に、健康記録を記入し、ホームの看護師を中心に、入居者の状態を理解している。医療機関と密接に関わり、適切な医療を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携に伴い、看取りに関する指針を明らかにし、説明・同意を得ている。現時点では看取りの実施はなく、医療面を考慮しながら、今後の方針を模索中であり、職員との共有にまで至っていない。		看取りに関しては、本人・家族・医師・ホーム側とが方向を統一する事が重要であり、今後、ホームにおける職員や管理者等で、支援体制の話し合いをされ、方針や知識の共有に努められる事が期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関わる書類は、事務所で施錠し管理している。記録は入居者とは離れた場所で記入している。ケア面ではプライドを大切に、耳元で声掛けをし、周りに配慮した支援を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を支援することに尽力し、タバコ・お酒は管理しながら支援している。又、家族への年賀状や玄関の電話で家族に連絡を取る等、自由を優先している。職員の勤務体制にゆとりを持ち、パターン化する事無く、共に生活している。		

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を持ち野菜を切る・皮むき等、食事の準備を入居者と職員と一緒にしている。出来た食事は職員の1名が同じ物を、他はお弁当と一緒に食べ、後片付けも一緒に行っており、家族が助け合いながらの共同生活を思わせる風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本として、毎日でも入浴可能である。拒否者に対する声掛けを工夫し、現在は体調不良以外は入浴を楽しんでいる。状況によっては部分清拭で対応する事もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に応じて、編み物・囲碁・作品作りを楽しむ、食事の準備・箱作り・玄関の活け花・居室の掃除等できる事は率先してしており、能力を引き出す声掛けに工夫が窺える。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会を出来るだけ取り入れ、列車の旅(原城～加津佐)・足湯・紅葉見物・お寺の行事に参加・ユニット間での交流等、昨年は入居者は日焼けし、風邪をひく人が少ないくらい外出をしている。今後は家族の参加を呼びかけていく方針である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアであるが、玄関にチャイムを着ける事で施錠は行っていない。日中は自由にユニット間を行き来しており、後ろを同行し止めることはない。行方不明を想定した対応マニュアルを作成し、常日頃から消防団にお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(地域消防団参加の総合訓練・自主訓練)消火・避難訓練を実施している。地震・風水害・その他の災害対処計画を作成し、緊急連絡先一覧表や自動火災通報装置の設置や防火マニュアルチェック自主点検表により、日々注意を払っている。地震・風水害に関して職員共有や訓練の実施はなく、備蓄状況は十分とは言えない。		立地的に消火・避難訓練は必須であり、日頃より訓練の実施があるが、地震・風水害の訓練実施はない。何時如何なるときに発生するか分からないが故に、日頃から想定した訓練の実施が期待される。又、それに付随する備蓄品(飲料水・食料・備品等)や持ち出し品の再点検が望まれる。

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事の提供に心がけ、時には関連法人の栄養士に相談している。自己摂取を基本的とし、食べ易い配慮として、トロミ・お粥・細かく切る等をしている。水分量は毎日記入し、不足にならないように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームを取り巻くロケーションは素晴らしく、騒音はなく、窓からは大自然を見る事ができ、全体的に明るい。加湿器を配置し換気に心がけ、空気の淀みは感じられない。工夫を凝らした作品やカレンダー等、和ませてくれる環境で、畳やソファを配置し、ゆっくりと過ごせている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個性的で、様々な必要な品(仏壇・コンテナ・洋服掛け・布団・椅子等)を沢山持ち込み、正に年齢を重ねた生活空間が出来ており、ベットと畳を状況で使い分け、生活感を醸し出している落ち着いた居室である。		